

岡山県

せいきょうう連会報

2010年

新年あけまして
おめでとうござります

CONTENTS

新年メッセージ

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 1 | 会長理事 |
| 2 | 岡山県知事 |
| 3~8 | 各界の方々 |
| 9~10 | 国・県行政・議員と情報交換 |
| 11~12 | 組合員・職員・役員が交流し、学ぶ |
| 13 | 県内の協同組合とともに |
| 14 | 県内の諸団体とともに |
| 15~16 | 岡山県消団連・NPO消費者ネットおかやまの
取り組み・行事から |
| 17~18 | 会員生協トピックス |
| 19 | 岡山県に「要望書」を提出 |

新年の

“正直”な社会、人間らしく生きられる年に



岡山県生活協同組合連合会
会長理事
安 場 靖

新年あけましておめでとうございます。

会員生協・組合員のみなさまには、清々と新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新年の抱負は、“明るく希望に満ちたものでありたい”と思うのですが、「景気」は依然として浮上せず、格差社会の矛盾も地球温暖化問題も、年金・福祉など社会保障の問題も農林漁業などの持続発展の方向も、展望が開けないままの年明けとなりました。

デフレ不況は、雇用環境の悪化とともに、消費者の購買力を冷え込ませ、生協の事業経営にも大きな影響が出ています。

このようななかで、県内の会員生協は、新年度に向けての事業計画、予算策定をすすめおり、不況下での事業力向上とともに生協の社会的役割や“協同組合の「価値」”についても、あらためて見つめる努力がされています。

さて、岡山県生協連は、昨年の9月26日創立50周年を迎えました。本年3月2日は設立記念日です。記念式典、記念講演会を3月5日に開催することにしています。

生協に集う人たち相互の助け合いと絆を基礎に、協同と連帶、民主主義を柱に運動をすすめてこられた先達の足跡と偉業に敬意を払い、深く感謝を申し上げます。

ダーウィンが「種の起源」を著し、またイギリスの産業革命が起こって一世紀半経ちました。こ

の僅かな期間に、人類は、長期にわたる宇宙滞在を可能にし、ありとあらゆる産業の飛躍的な発展を遂げるまでになりました。その一方で、第一次、第二次の世界大戦を含め、日清、日露、ベトナム、中東など数々の戦争、戦闘によっておびただしい数の尊い命が奪われ、環境が破壊され、地球温暖化も加速しました。

今、「世界から核兵器をなくそう」「地球温暖化を防ごう」と、立場や意見の相違がありながらも、世界の多くの人々は前向きになろうとしています。このような時に、過去、人類の命を奪ってきた人間の仕業を誠実に総括し、平和な世界の実現のため、人と人が信頼し合って未来をつくることは、私たち人間の欠かせない努力課題ではないかと思います。

科学や技術の進歩が、人の命を守り、人間らしく生きる“糧”にされるのも、そのような社会を築くチャンスを生かそうとするのも人間をおいてほかにはありません。

先の「協同組合の《価値》」の一節に「～協同組合の組合員は、誠実(正直)、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする」が記されています。

今日、虚偽、偽装〇〇事件があとを絶ちませんが、過去の戦争もほとんど例外なく“ウソ”が始まりでした。かつて、「消費税」の導入も“この顔がウソをつく顔ですか?”の“ウソ”で決まり、「福祉目的に充てる」も“ウソ”でした。

国連は、昨年の暮れ、2012年を「国際協同組合年」とすることを決めました。

新しい年が「ウソのない誠実な生き方を信条とする人間社会になること」。未踏の領域ではありますが、県生協連もおよばずながら、その実現に努力してまいります。

会員生協・組合員のみなさま並びに行政、各界のみなさまには、ひきつづきご協力ご指導をお願いいたしますとともに、ご健勝を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

ごあいさつ

分権型社会で地方の自立を目指して



岡山県知事
石井正弘

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員組合及び組合員の皆様にはよき初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、岡山県生活協同組合連合会におかれましては、会員組合であります岡山県労働者共済生活協同組合とともに、創立50周年を迎えたこと、重ねてお喜び申し上げます。

さて、世界的な景気後退に端を発する、厳しい経済・雇用情勢が続く中、「暮らしやすさ日本一」の岡山を目指し、全力を傾注してまいりたいと決意を新たにしているところです。

昨年は、経済・雇用対策を迅速に講じつつ、持続可能な財政構造の確立に向け、歳出の抜本的改革や組織の簡素効率化に取り組みました。また、消防防災ヘリコプターの本格運航による防災・危機管理体制の強化や新型インフルエンザ対策など、県民の皆様の安全・安心の確保に全力で取り組みました。さらに、太陽光発電の導入支援や県産農産物のPR、「晴れの国おかやま観光キャラバン隊」の派遣、韓国の慶尚南道との友好交流協定締結などにより、国内外に向けて、「晴れの国おかやま」を情報発信しました。

また、国の政権交代があり、地方分権改革の大きな進展への期待が高まりました。今後も、新政権に対して、より戦略的に改革が推進されるよう積極的に提案を行うとともに、政策の実施に当たっては、地方の意見が反映されるよう強く求めてま

ります。

そして、「第26回全国都市緑化おかやまフェア」は、大成功のうちに幕を閉じました。フェア開催を契機に培われた県民力と人の和は、今後の県政推進の大きな力になるものと確信しております。ご尽力いただきましたすべての皆様に、心からお礼申し上げます。

本年は、昨年9月に改訂を行った「新おかやま夢づくりプラン」に沿って、行財政構造改革の取り組みを進めながらも、岡山の明るい未来につながる分野はしっかりと進めていくという考え方に基づき、「子どもを健やかに生み育てる環境づくりと将来を担う人づくり」「子どもや女性、高齢者などの安全・安心の確保と良好な環境の保全」「競争力ある成長産業の育成や力強い農政、観光立県の推進」に全力で取り組むとともに、「多様な主体との協働による活力ある社会づくり」「中長期の発展も見据えた経済・雇用対策の推進」、そして「岡山からの情報発信と拠点性の向上」に努めます。

さらに、行財政構造改革を着実に推進するとともに、「地方の自立と再生」を目指し、真の地方分権改革を実現させるため、国などに対する地方税財源の拡充や地方への大幅な権限移譲などの積極的な提案と、道州制の導入に向けた機運の醸成に努めながら、創造のための改革をさらに推進します。

その中で、私たちの一番身近な問題である消費生活におきましても、国や市町村とも連携しながら、県民一人ひとりが安全で安心な消費生活を実現できますよう、消費者被害の撲滅・救済や悪質事業者の指導・取締りに取り組んでまいります。

さて、今年は、いよいよ「あっ晴れ！おかやま国文祭」が開催されます。県民総参加による、岡山らしい魅力と感動にあふれる文化の祭典となるよう、準備に万全を期し、晴れの国おかやまの魅力を全国、そして世界に向けて発信してまいります。

引き続き、県民の皆様の力強いご支援、ご協力をお願ひいたしますとともに、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

新年の

岡山県議会議長



岡山県議会議長
小田 春人

平成22年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

岡山県生活協同組合連合会は、昭和35年の設立から、昨年9月に創立50周年を迎えられました。設立以来、環境、福祉等、各種分野に幅広く活動され、県民福祉の向上に多大なご尽力を賜っており、深く敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

私は、県議会議長に就任以来、県民の福祉の向上と県勢の発展に邁進しているところです。

昨年9月に新政権が誕生し、国政を取り巻く環境は大きく変わろうとしております。地方の活力なくして、国の発展はありません。今後、国から地方への権限移譲や、税財源の移譲による地方財源の充実を図るなど地方分権改革を一層推進していくなければならぬと決意を新たにしております。

今、まさに地方議会のあり方も大きく変わろうとしています。県民の視点に立って政策条例を策定するなど政策立案機能を強化し、監視機能も充実することにより、議会としての役割を十分果たしていきたいと思います。

米国のサブプライムローンの問題に端を発した世界的金融危機により経済・雇用情勢は大変な打撃を受けており、本県も百年に一度という経済危

機に直面しております。

そこで県議会では、県財政の厳しい折ではあります、大型の補正予算を組むなど、経済・雇用対策を最優先課題として取り組んでいるところであります。また、過疎化が進む中山間地域の振興を図ることも重要な政策課題であると考えております。

経済や景気だけでなく、凶悪な殺人事件が連日報道され、子どもたちに関わる痛ましい事件も後を絶ちません。岡山県の将来を見据えて、“教育県おかやま”を復活させるため、教育の充実を図ることが喫緊の最重要課題です。また、秋に開催される国民文化祭に向けて、本県の文化や歴史の魅力を全国に発信したいと思います。

西郷隆盛公が好んで使われた言葉に、「敬天愛人」があります。「人間として正しいことを貫き、私利私欲をなくし、人を思いやる心を持って生きるべし」という教えであります。

私もこの「敬天愛人」の精神を座右の銘として、全身全霊で議会運営に努める決意でありますので、県民の皆様方のより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、新しい年が皆様方にとりまして幸多い一年になりますように、また皆様方の御健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

ごあいさつ

会派代表のみなさま



自由民主党県議団
団長
池田道孝

新年あけましておめでとうございます。
岡山県生活協同組合連合会の皆様方におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方には、昭和35年の設立以来、地域社会に根ざした活動を積極的に展開され、昨年9月には創立50周年を迎えたところであります。その間、事業内容も生活用品の供給をはじめ、医療、共済など様々な分野へ広がり、最近では、介護保険をはじめとする福祉や環境問題、また食の安全への取り組みにも多大なご貢献をいただいているところであります。深く敬意と感謝の念を表する次第であります。

近年、全国で相次いで食品表示偽装が起り、また架空請求や悪質な訪問販売など消費者が被害者となる事件が後を絶ちません。私たちの一番身近な問題である消費生活について、県民一人ひとりが安全で安心した生活を

送ることができる社会を実現することは、県民全ての願いであります。

現在、ご承知のとおり、アメリカ発の経済危機に端を発し、地方経済は景気後退の悪循環、いわゆるデフレスパイナルに陥っており、また雇用情勢も有効求人倍率が低水準のままであり、深刻な状況にあります。

自由民主党岡山県議団としても、この難局に対処するため、産業の振興や雇用対策など緊急経済対策等を積極的に実施するとともに、消費生活行政や地産地消運動の推進、学校教育の充実など、安全で安心な県民生活の環境づくりに全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様方のより一層のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

最後に、新しい年がご多幸の一 年となりますとともに、岡山県生活協同組合連合会のますますのご発展と皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



民主・県民クラブ
議員団長
住吉良久

新年あけましておめでとうございます。
さて、岡山県生活協同組合連合会におかれましては、長年地域社会に根ざした活動を展開してこられ、昨今は、事業内容も介護をはじめ、福祉や環境など幅広い消費者ニーズに対応されるとともに、特に、一昨年の冷凍餃子事件などを教訓とし、いち早く食の安全にも取り組まれ、多大なご貢献を頂いていますことに感謝申しあげます。

岡山県におきましても、「快適生活県おかやま」の実現に向けて「新おかやま夢づくりプラン」を策定し、県民目線に立って、安全・安心、子どもの教育、子育て、環境保全や中四国における拠点性の向上にも配慮しながら、夢あふれる明るい未来に向けての施策を進めています。

さて、食品表示偽装、架空請求や悪質な訪問販売など、消費者被害の発生が後を絶たず、岡山県消費生活センターに寄せられ

た消費者トラブルの相談件数は、やや減少傾向にあるとはいえ、依然として高い水準を推移しています。国においても、消費者行政の一本化を目指す消費者庁関連法案を立ち上げ、消費者の視点に立った施策に取り組むため、昨秋、消費者庁を設置しました。

岡山県におきましても、「暮らしやすさ日本一の岡山」の実現に向けて、「安全・安心の岡山」の創造を基本戦略の一つに位置づけ、県民の皆様との協働により、すべての人が安全で安心して暮らせる地域社会づくりに全力で取り組んでいます。

皆様におかれましても、これまで培われた豊かな経験を生かし、「安全・安心の岡山」の創造に引き続きご尽力を賜りますようお願いを申し上げますと共に、本年も、皆様にとって幸多き年でありますことを心から祈念いたします。

新年の

岡山県議会会派代表のみなさま



公明党岡山県議団
団長
景山 貢明

新年明けましておめでとうございます。

月日がたつのは本当に早いものですが、現在の一瞬一瞬を大切にと思う下さい。どうか、皆様方におかれましては素晴らしい一年となられますようお祈り申し上げます。

本年3月には貴団体の創立50周年の記念式典が執り行われるとおうかがいしています。半世紀の大変なとりくみに心から敬意を表するものです。

今、時代はめまぐるしい変化といわれ久しいのですが、とりわけ、2025年にピークを迎える高齢社会をどう乗りきっていくか。年金、医療、介護などの社会保障分野の体制をどのようにさらに整えていくのか、課題は山積している訳です。たとえば、介護の問題ひとつとっても、皆様ご承知のこと

と思うのですが、利用者、事業者、働く人たちのさまざまな立場からの声がきこえてくるではありませんか。「施設が足りず入所できない」「介護する家族の負担が重すぎて、仕事ができない」「重労働なのに安月給でこの先、いつまで続けていいか?」等々。要は、さまざまな時代や社会からの声をお互いが聴いて、お互いが努力していく、こういうことが今こそ大切なのはと思うところです。

よく時代はいきづまっているということがいわれますが、それは、それぞれの持ち場、持ち場の責任者がいきづまっているとしたらいきづまっているのであって、とりわけ、子供や社会的な弱者に責任はないように思います。庶民目線を大切になさる生協の皆様、ともどもにがんばりましょう。



日本共産党県議団
団長
武田 英夫

新年明けましておめでとうございます。

新しい年の最大の希望は、何といっても「核兵器廃絶」を国際政治の具体的テーブルに載せることではないでしょうか。

アメリカオバマ大統領の昨年4月のプラハ演説以降の流れを受けて、今年5月にニューヨークの国連本部で行われるNPT(核不拡散条約)再検討会議では、全ての核保有国が核兵器廃絶への現実的プロセスに参加しその一步を踏み出す大きな機会となるでしょう。

それは、核兵器廃絶の運動の中で大きな役割を果たしてきた生協の草の根の運動の成果でもあると思います。

さて昨年夏の政権交代は、国民が「格差と貧困」の社会を終わらせ、国民が主人公の政治への大きな一步を踏み出

した結果であることは確かです。私たちはこの「変化」がさらに前に進むよう全力を尽くしたいと考えています。生協の皆さん方の様々な願いもその中で実現していくのではないでしょうか。

しかし一方、後期高齢者医療制度廃止の先送りや沖縄の普天間基地移設問題など、事態が順調に前に進んでいるわけではないことも明らかです。「政治と金」の問題も後を絶ちません。

依然として「大企業の論理」「戦争の論理」が立ちはだかっていることは確かであり、今年も昨年以上に波乱万丈の年になることは間違ひありません。

生協の皆さん方が県民生活のあらゆる分野で、「非営利協働」の力を大きく發揮されるよう期待して新年のメッセージとします。

ごあいさつ



日本生活協同組合連合会

会長

山 下 俊 史

新年おめでとうございます。

这一年を通して、岡山県生協連と会員生協の組合員・役職員の皆様が、消費者・組合員のくらしを支えるため日夜努力を積み重ねてこられ、さらに昨年9月に創立50周年を迎えるましたことに、深く敬意を表したいと存じます。

今日、世界は、経済危機、地球温暖化、食料需給の不安定化、貧困・飢餓、テロなど、平和なくらしを脅かす重大な問題に直面しています。私たちは、それぞれの問題を解決する努力とともに、このような状況をもたらしてきた世界のあり方についての問い合わせを求められているといえます。国内においても、消費者・組合員のくらしと生協の経営が厳しく先行きの見えにくい状況のなか、新年を迎えることとなりました。

一方、世界の指導者たちが核兵器廃絶へ踏み出す動きや、地球温暖化防止に向け日本のリーダーシップを發揮しようという動きなど、人びとの願いに応える変化の兆しも見えています。また消費者庁・消費者委員会が設立されるなど、くらしを守る仕組みの前進もありました。世界各地の協同組合が参加した昨年11月の国際協同組合同盟ジュネーブ総会では、岡山県生協連の皆様をはじめ平和の取り組みに尽力されてきた全国の生協を代表して、日本生協連より核兵器の廃絶を求める平和決議を提案し、採択されました。厳しい状況を打開し未来を築こうという人

びとの動きは、世界で、日本で、しっかりと歩みを進めており、生協をはじめとする協同組合への期待とその役割は、いちだんと大きくなっています。

昨年は、今日の日本の生協の礎を築いた賀川豊彦が、神戸で救貧活動を始めてから百年を迎えた年でした。賀川は「貧民を解放する道は、彼らが自覚して自立し、組織的活動をすることだ」とし、貧しさを協同の力で克服すべく生協を設立しました。今日の情勢は賀川の生きた時代とは異なります。しかし、その理念は、今わたしたちが直面している危機への対処において変わらぬ価値があり、「自立した市民の協同の力で人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現を」目指す生協の21世紀理念として引き継がれています。

今わたしたちの前には、重要で、容易には達成できない課題が山積しています。しかし、連帯を強め、全国の生協の力を結集するならば、事業経営の構造改革を実現し、組合員の期待に応える事業活動を実現することは必ずできると確信しています。今年は、生協の未来戦略となる「長期ビジョン」づくりを進め、全国の生協で論議をさらに深めていきます。全国の英知を結集し、協同の力でこの危機を乗り越えて行こうではありませんか。

新年のごあいさつ



岡山県農業協同組合
中央会会長
村上進通

食料需給の逼迫感や食の安全・安心の確保、そして環境保全への取組みなど、国民的な関心は非常に高まっております。

こうした中で、JAグループ岡山は、昨秋第31回岡山県JA大会を開催し、「大転換期における新たな協同の創造」と題

新年明けましておめでとうございます。岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年の9月には創立50周年を迎えたということであり、深く敬意を表するとともに重ねてお慶び申し上げます。

さて、食料・農業・農村をめぐる情勢は、世界的な



岡山県漁業協同組合連合会
会長
奥野雄二

されるとのこと、誠に喜ばしく、重ねてお慶び申し上げます。

さて、昨年度は、長引く経済の停滞とデフレ基調、更には新型ウイルスの流行など非常に厳しい年であり、また、8月末には総選挙による政権交代など変革の年でもありました。

こうした動きは、我々水産業界におきましても、水産物の消費・流通機構の変化等による水産物価格の全般的な下落とも相まった極端な価格安や国の水産施策の一部見直しなど大きな影響を受けております。これに加え、燃油価格や資材価格の高値変動、漁業資源水準の低迷、ここ数年顕著になってきている急激な漁場環境変化によるノリ、カキ養殖業の不振、更には、漁業従事者の高齢化等による生産構造の脆弱化等、

協同組合・友誼団

して、消費者との連携による農業の復権・JAの総合性発揮による地域再生への貢献・協同を支えるJA経営の変革、の3つの基本目標を定め、向こう3カ年にわたって重点的に取り組むことを決議し、今年度より具体的に取組んで参る所存でございます。

とりわけ、「消費者との連携による農業の復権」においては、「JAグループ岡山が一体となった安全・安心ネットワークの構築」や「農業・農村の多面的機能の役割、食農教育の必要性の情報発信」等に取組み、消費者と生産者の活発な交流等を通じて国内農業に対する県民の理解と合意形成につとめて参ります。

今年も、岡山県の農業振興と活力ある地域社会を築くため、皆様と連携して、協同組合活動に取組んで参る所存でございます。一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとりまして実り多い年となりますよう、また皆様のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

未曾有の厳しい年でもありました。

こうしたことから、昨年度より生活協同組合の店舗で実施させていただいております水産物の産地直送による直売、前浜で漁獲された魚介類の地元漁協での直売、ノリ・カキや生鮮魚介類の水産物ブランド化推進の強化などにより、適正価格の確保と新鮮で安全・安心な水産物が供給できる体制整備の強化に努めています。

一方、こうした厳しい環境の中でも持続可能な漁業経営の確立を図るため、魚介類をただ獲るだけでなく、網目制限、小型魚の再放流、漁獲解禁日の設定などの自らの取り決めによる資源管理や漁業者が行う各種放流種苗の中間育成への取り組などを強化しております。

また、海の恵みを享受するだけでなく、県と漁業者が一体となって実施しているアマモ藻場再活動、毎年実施している漁場や海岸の清掃、漁業者による植樹など、自然環境や生態系の保全活動についても、漁業関係者一丸となって努力してまいる所存ですので、皆様のご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、岡山県生活協同組合連合会の購買・医療・共済などの事業を通して取り組んでこられました、産直、食の安全、環境、福祉助け合い、子育てなどの幅広いご活躍に深く敬意を表しますとともに、皆様方の今後のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、年頭にあたってのごあいさつといたします。

体代表のみなさま



(社)岡山県労働者福祉協議会
会長

坪井義範

新年あけましておめでとうございます。岡山県生活協同組合連合会の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども県労福協に対しましてご理解とご支援に厚く感謝申し上げます。

さて、日本経済は内需拡大策や、アジアを中心とした輸出の改善で緩やかに好転しつつあるといわれています。

しかし、依然として失業率の高止まりや個人消費の低迷で回復力は弱く、本格的な景気回復までには程遠い状況となっています。

こうした状況のなかで、私たち勤労者・生活者の実情は、雇用不安の拡大や賃金抑制、格差拡大や医療・社会保障の見直しなどにより、一段と厳しさを増しています。

鳩山新政権には、「国民の生活が第一」とした政権公約にしたがい、勤労者・生活者の視線による政策の実現が強く求められます。

こうした状況に鑑み、私どもは昨年5月「岡山ライフサポートセンター」を開設致しました。このライフサポートセンターは、生活支援を目的として、岡山県内に3つの地域センター（おかやま・くらしき・つやま）を置き、地域の勤労者・生活者の皆様の様々な悩み事やご相談に対応し、悩み解決に向けた支援を行うものであります。

今後とも広報・宣伝はもとより相談内容の充実を図り、更なる拡大・発展していきたいと思っています。

今日、政治・社会・労働環境等が大きく変革していくなか、労働者福祉も時代の変化や社会のニーズに応えて自ら改革していく必要があります。

県労福協は、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向けて運動を推進していく所存です。

最後になりましたが、この一年が皆様方にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



(社)岡山県婦人協議会
会長

水野三重子

新年あけましておめでとうございます。岡山県生協連のみなさま、お元気で新年をお迎えになったこととおよろこび申し上げます。

2009年は、世界的な金融不況がつづきデフレの影響も受けて、日本の景気は、回復の兆しあえ見えてきません。

昨年の政権交代が国民の期待に応えられるものになることを願わざにはいられません。

地球温暖化の進行のもと、COP15が開催され、CO₂の削減をめぐって世界の国々が意見を交わしました。会議は、肝心の中味が先送りされるなどの問題が指摘されていますが、評価如何にかかわらず、私たちの普段の環境意識の啓発、実行にいっそうの努力がかかっていることに変わりはありません。

また、平和の問題も、オバマ大統領

の「核兵器を世界からなくそう」の演説もあり、この追い風を受けて、世界で唯一の被爆国日本の役割がますます大きくなっています。

私どもは、これまで、食の安全と食育の推進、輸入に頼らない自給率の向上、資源を大切に環境を守るなどのことはもとより、過去の悲惨な戦争体験からも、核廃絶を訴え、戦争の火種になるものは避け、全力をあげて平和を守る努力と責任を果たすべきことを唱えてきました。

戦後60余年が経過し、戦争を知らない世代が増え、戦争は記憶の底で風化しようとしています。

新しい年を迎えてあらためて平和な日本、平和な世界、平和な地球をめざして私たちは手を取り合おうではありませんか。

国・県行政

●石井 正弘岡山県知事と懇談【2月16日（月）10：30～11：00 岡山県庁 知事室】



↑安全・安心に関わることは財政の削減対象にはならない…と石井知事
生活相談窓口を設けている。居住を開設している（倉敷医療生協）。休耕田が増えていて、有効な活用方法はないか（三井造船生協）。

「おぎやっと21」の取り組みに参加しているが、親子にとって楽しく、いい経験交流の場になっている。「ももっこカード」の要望・期待は大きいので活用範囲を広げたい（おかやまコープ）。などの発言があり、飼料米の作付け、高齢化・担い手問題などにも関わること、「ももっこカード」は、学校などへ広く普及を、「子育て支援」の活動は、事業の面と組合員の自主的な取り組みと組合せられることが大事などの意見がだされました。

最後に、知事より、県財政は厳しいが、「安全・安心」に関わることは、削減対象にはならない、守っていかなくてはいけないもの、との言葉がありました。

県生協連の安場会長理事より、『地方消費者行政活性化交付金』に関する、消費生活相談員の養成や専門家との提携、業務環境の改善等に向けた有効活用について、このチャンスに「消費者行政の充実強化を一步二歩と進めて欲しい」旨、県生協連としても要望しているとの発言がありました。

出席者からは、食の安全に関して、特に「冷凍餃子」事件以降の日本生協連の品質保証体系の再構築とおかやまコープの食品防衛・防犯対策、消費者啓発・食育等の取り組み。循環型農業を指向した牛乳のリニューアルなど産消提携に取り組んでいること（おかやまコープ）。

商品・福祉・環境・子育てひろば・チャリティバザーなどに取り組んでいる家庭会の活動（三井造船生協）。昨年開設した『さくらんぼ助産院』の利用が増えている。「認知症サポーター」制度に取り組んでいる。非正規雇用「派遣切り」が深刻化する中で、住まい・健康保険等

●県民生活課との定期懇談会【2月17日（火）10：00～11：30 日生ビル8階会議室】



↑挨拶される肥塚秀文県民生活課長

岡山県より、生活環境部消費者行政担当 三宅進参与 県民生活課肥塚秀文課長・近藤理恵主任のご出席をいただき、県生協連からは、役員など14名が出席、会員生協の取り組み状況の報告と昨年10月17日に提出していた県への要望書」に対する回答を中心に質疑、意見交換を行いました。「要望事項」に対しては文書で回答があり、以下の補足がありました。

- ・地方消費者行政活性化交付金は人件費や従来事業には充当できないので、現在検討中ある。
- ・消費者団体訴訟制度に関して、悪質業者へ政処分については、被害者（高齢者等）への聞き取り等を行うが、被害状況をつかみきれないため、難しい。
- ・レジ袋削減については、全体ですすめていくことが大切だと思っているなど。



↑懇談会風景 挨拶する 安場会長理事

●第25回中四国生協・行政合同会議【9月2日（水）セントコア山口】

厚労省中国四国厚生局 阿部博一 健康福祉部福祉課長ほか、日本生協連渉外広報部、山口県環境生活部、中四国9県の行政より12名、生協より43名の計55名参加で開催されました。

テーマは、「くらしの安心・安全・住みよい地域社会づくりに向けて～今求められる生協・行政の役割」。参加者より現状と課題、取り組み活動などが報告されました。

また「まるごと！やまぐち ぶちたべちゃろう」をキャッチコピーとした山口県产品を使った和・洋料理、飲み物（地酒・焼酎・ワイン）の試食交流会では、山口鶩流狂言保存会による郷土芸能の出し物もありました。

会は、次回開催県の香川県生協連より挨拶があり、終了しました。



↑挨拶する日本生協連三橋常任理事



議員と情報交換



●岡山県議会議員のみなさまと懇談会の開催【12月4日（金） オルガホール】

1990年を初回として21回目となった今回の懇談会は、県議会代表質問二日目の午後4時よりおこなわれました。

テーマ：「より安全、より安心できるくらしを求めて！」



↑開会あいさつする安場会長理事

安場 靖県生協連会長理事より、「懇談会は今回で21回目となり、この間、食の安全や環境・福祉、消費者の自立支援と権利の尊重など県民の安全と安心に関することがテーマになって意見交換がされてきた。そして、食の安全条例をはじめ、消費者行政の充実に向けた条例や基本計画作りに果たされた県議会の役割は大きく改めて敬意を申し上げたい。」

今年は県生協連創立50周年、来年の3月5日は記念式典を予定している。「ご出席方よろしくお願ひしたい」と挨拶がありました。



↑発言する三橋副会長理事

ご出席の議員からは自己紹介を兼ねてご挨拶があり、過去の懇談会で印象に残ることや生協への期待等が述べられました。



↑発言する清瀬（左）、中原（右）両副会長理事



懇談会 ご出席の議員

お名前	所属	お名前	所属	お名前	所属
小倉 弘行	自・生環委長	池本 敏朗	自・生環委員	増川 英一	公・産業労働
小田 圭一	自・副委員長	一井 晓子	民・ク生環委	武田 英夫	共・県議団長
蜂谷 弘美	自・生環委員	景山 貢明	公・県議団長	赤坂てる子	共・生環委員



↑出席された県議会議員9人（前列）のみなさまと岡山県生協連の役員



会員生協からは、生協の概要と日頃の活動内容、議会・議員さんへの要望などがされました。購買生協からは、「見守り・緊急通報システム（愛ことば）」「牛乳や県産米などの地産地消の促進」「再建35周年コープフェスタ」の取り組み、「玉野市における葬祭事業」「生協ふれあい祭り」「家庭会活動」などが紹介されました。

医療生協からは、医療・介護事業、健康チャレンジ、認知症サポーター養成、「命の大運動」の取り組み、産婦人科など医師・看護師不足の実情などの報告がされました。

会長からの話題提供では、「交付金」の有効活用など地方消費者行政充実の問題、生協連帯による庄内地域高齢者福祉活動の研修に学ぶなどについて触れられました。

質疑では、「食料自給率やGAPなどの取り組み」「過疎地域におけるくらし応援の期待」「都市農業の課題」「高齢者住宅の取り組み」「消費者教育」「適格消費者団体認定の課題」などについて、活発なやり取りがされ、有益な情報交換の場となりました。

組合員・職員・役

●県連・単協役員研修交流会を開催【1月7日（水） オルガホール 参加者は講演会に62名】



↑挨拶される肥塚秀文県民生活課長



↑講演中の日本生協連 芳賀唯史専務理事

県生協連会長理事の開会挨拶について、岡山県生活環境部県民生活課長の肥塚 秀文氏にご挨拶をいただきました。

今回は、講演Ⅰとして、日本生協連常務理事（現専務理事） 芳賀 唯史 氏に「日本の生協のこれから」～幹部職員に期待されること～と題して講話をいただきました。

新しい生協法のもとで生協が持続発展し、社会的役割と責任を果たしていくことの意義、事業者（生産者）と消費者の信頼関係をつくっていくことの大切さを述べられました。「生協の原点、そこに立ち返って活動することの大切さ、今日的意義を改めて考えさせられました」…講演後、参加者の感想です。

これから、さまざまな立場、環境のもとで、生協運動に携わっていく私たちに、貴重な示唆と問題を提起していただきました。

後半は、地域生活情報誌「オセラ」編集長青山 融氏より「岡山弁 再発見！」と題してのお話し。

方言の地域性、法則性の解析とともに、映画「釣りバカ日誌」のロケ現場での方言指導の様子など、漫談風の講話に会場は大いに沸きました。

何かと厳しい年明けに、「私にとっての初笑い、良い年明けになりました」と、ある参加者の弁。



↑青山 融さんの方言談義に爆笑も…

●組合員活動交流集会【1月27日（火） 10：00～12：30 オルガホール 11生協243名の参加】



↑家計簿をつける…
その効果は?と いちのせさん

講師に「いちのせ かつみさん（生活経済ジャーナリスト・ファイナンシャルプランナー）を迎えて、「金融危機で 私たちの生活はどう変わる?」と題してのお話し。

また、県金融広報委員会の内野 敏行（日銀岡山支店次長）さんには、金融広報委員会が行なっていることや役割などについてお話ししていただきました。



←お声があれば、どこへでも…と内野さん

会員生協からは、県労済生協とおかやまコープ（～夢の実現や不安解消のために～あなたも参加してみませんか?）

医療生協（「初夢”認知症になっていた!?!」）から発表がありました。



↑全労済生協…「生活保障設計運動」



↑おかやまコープ…LPAの会



医療生協（岡山・倉敷・津山）

…寸劇風景

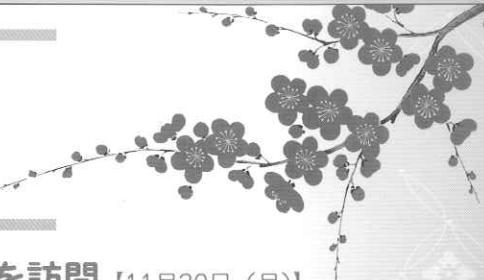
《寄せられた感想の中から》

講演では、生き方、お金に対する基本的な考え方を話してもらったと思う。軽妙な語り口でわかりやすい内容でした。お金の使い道として必要な時は使い、家計簿をつけ、ムダなものは削る。わかっているけど、なるほどと考えさせる内容でした。これからの買い物は、「欲しい」ではなく「必要なのか」を考えたいと思う。今夜、さっそく家族会議です。金融広報委員会を初めて知った。幼稚園からお金の大切さ、物を大事にすることを教えていく活動は大事なことだと思う。全体を通して、生活の厳しい中で、くらしを見つめ直し、お金を考える上で良い企画でした。限られたお金を上手に使う当たり前のことだが、改めて見直していきたい。家計簿、いつも途中やめでしたが、これから、つけ始めようと決心した。

不當勧誘、貸衣装・賃貸等不當契約、多重債務、建物・設計問題など、トラブルでお困りの方は
岡山県消費生活センター ☎700-0807 岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ5階 Tel086-226-0999
消費生活相談の受付け…火～日（月曜日休み）9：00～12：00 13：00～17：00 （津山分室TEL0868-23-1247）

へ ご一報ください。

員が交流し、学ぶ



●県生協連が山形県庄内地域（鶴岡市、酒田市など）を訪問【11月30日（月）】



私たちは、活動の実際を見聞して、決して順風満帆といえない経営状況の中で、厳しい現実を直視しながら、役職員のみなさんが明るく活動されていること。365日、24時間、重く困難な事業に挑み、悩みながらも、地域に支えられ、組織を育み、「まちづくり虹」を主体として、多種機能の福祉介護施設（高齢者住宅等）を根付かせてこられている姿に深い感銘をうけました。



県生協連は、庄内まちづくり協同組合「虹」を中心とする高齢者福祉活動およびその住宅事情を学ぶため、山形庄内地域（鶴岡市、酒田市など）を訪問しました。

一連の事業や活動は、地域購買生協としての「生協共立社」とその組合員たちが1964年の新潟地震の救援に立ち上がり、これをきっかけに設立した庄内医療生活協同組合が連帯・連携して取り組んでいるというものでした。

過疎・高齢化がすすむ地方都市にあって、協同あるまちづくりを進めてこられたことは、全国の実践運動のモデルとしてよく知られていることでしたが、その取り組みがさらに進展し、地域に根付いてきているのが、高齢者医療福祉および高齢者住宅事業の展開です。



今回は訪問団一行18名で、1日のみの研修ではありましたが、地方都市における共通の矛盾や悩みを有しながら、一定の歴史と地域への影響力を持つ購買・医療・共済分野に携わる私たちにとって、貴重な刺激と課題を提起してもらいました。

“岡山における「協同あるまちづくり」に期待できる”そんな予感がよぎる訪問でした。



↑ 姫路医療生協 福祉介護センター 「つどい」

●医療部会外部研修【9月25日（金）姫路医療生協】

テーマ：「介護事業所への組合員のかかわり」

岡山医療4人、倉敷医療4人、津山医療2人、計10人が視察。

《視察で学んだこと》

- ① 介護は医療よりも先に組合員のくらしの中にあり毎日の生活の身近なこととしてある。そこにしっかりと目を向け組合員要求に応えている。そして事業として立派に運営している。
- ② 事業所の開設については、準備段階から組合員参加をしっかりと位置づけている。これは、生協運動の原点であるように感じた。自分たちの要求を自分たちの協同した力で実現していくことがさらにエネルギーを生み出している。
- ③ 事業所運営では、運営委員会とボランティアさんが大変大きな役割を果たしている。利用者確保に責任をもつ、これぞまさしく生協の姿ではないでしょうか。
- ④ 事業所で働く人材も、ヘルパー養成講座を開催し自前で養成している。また、事業所の人材育成でも責任者募集で自己推薦制を採用するなど働く意欲を引き出す工夫もされている。



↑ 姫路医療生協組合員さんと情報交換

県内の協同組合とともに

●岡山県協同組合連絡協議会交流会【7月31日（金）オルガホール】



↑村上進通協議会会长の挨拶



↑講師の坂野百合勝氏

国際協同組合デーを記念して、県内の3協同組合の役員と県農林水産部職員など総勢39名の参加で行われました。

村上進通協議会会长（JA岡山中央会会長）の開会挨拶につづいて、県農林水産部の藤井伸次長よりご挨拶をいただきました。

基調講演では、協同組合経営戦略フォーラム代表の坂野百合勝氏から「10年後も輝き続ける協同組合運動をめざして」と題してお話しを伺いました。

若者に魅力のある生協にしなければいけない等、協同組合間の共通課題について語られました。



岡山県協同組合連絡協議会交流会

●「菜の花を植えるつどい」【10月9日（金）赤磐市 岡山県農業総合センター】



↑園児たちと…手をとって石井知事

岡山県・岡山県菜の花プロジェクト推進協議会の主催で第1回「菜の花を植えるつどい」が開催されました。

前日の台風が心配されましたが、当日は秋晴れに恵まれ、岡山県菜の花プロジェクト推進協議会会員、赤磐市内保育園児、農業大学校等、約250名の参加がありました。

農業大学校生による和太鼓演奏のあと、石井岡山県知事、村上JA岡山中央会会長の開会の挨拶につづき、知事、保育園児及び協議会委員等により菜の花の苗の植え付けがされました。

10月23日（金）には本協議会のモデル地区の総社市上林地区において、地元の子供たち等による第2回「菜の花を植えるつどい」が開催されました。

●食糧・農業についての地域内交流会【9月2日（水）JA岡山西大寺支所】

JJA岡山・JA岡山女性部主催の交流会に、消費者として、県生協連の会員生協職員・組合員20余名が参加。

地元で取れた食材で作られた黄にら寿司・おからサラダなどを試食。続いて、岡山県JA中央会専務理事の宮本芳郎さんが『世界の食糧事情と日本の食糧・農業の現状』と題してお話しをされました。

また、『JA岡山管内の農業の現状と将来展望について』をテーマとしたパネルディスカッションでは、県生協連理事でおかやまコープ全体理事の宮本紀子さんも、「牛乳普及キャンペーンの際、生産者のご苦労を聞くことができ、良かった。現場の大変さ・生の声を消費者が知ることはとても大切。」と発言。

生産者と消費者がお互いに交流を深めることができました。



↑講師の宮本芳郎さん



↑発言する宮本紀子さん

県内の諸団体とともに

●第28回岡山県民平和のつどいが開催【7月4日（土）オルガホール】

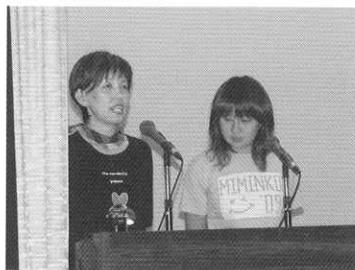
今年の県民平和のつどいは、『Peace, Peace, Peace 2009 !核兵器のない世界を！夏の雲は忘れない』をテーマに開催されました。

岡山大学うたう会「みみんこ」による歌と踊りでオープニング。

県婦人協議会 水野三重子会長の開会あいさつ、被爆者会のあいさつ、子ども平和大使（おかやまコーブ倉敷エリア）の子どもたちの「平和の誓い」とつづき、ゲストの日色ともゑさんの「おはなしと朗読」が行われました。



↑オープニング「みみんこ」



↑司会の岡本さん（おかやまコーブ）
と白方さん（みみんこ）



↑水野三重子会長



↑岡山市被爆者会のみなさん



↑倉敷エリア
子ども平和大使の
「子ども平和の誓い」



岡山合唱団ほかの皆さん→

日色ともゑさんから、
核のない平和な世界を
つくるために続けてい
る朗読劇の紹介があり
ました。

また、ご自身の戦争
体験も交えてお話し
ただきました。

会場では350名の方々が熱心に聞き入
り、あらためて平和の大切さを考えさせ
られました。

エンディングは、合唱団の皆さんと
ともに、日色さん、みみんこの若者たち、子ども平和大使、会場の皆さんとともに平和な
ふるさといつまでも…との願いを込めて「故郷」を合唱しました。



↑公演中の 日色ともゑさん



・・・岡山県消団連・NPO消費者ネット

●第23回岡山県消費者大会を開催【10月30日(金) 10:00~12:30オルガホール】

参加者は16団体270名となりました。

大会は、代表幹事で岡山県労福協の西田 和久事務局長の開会挨拶に続いて、グループ「ももばあ～じゅ」による公演「くらしの安心！消費者被害にあわないぞ！」がありました。

振り込め詐欺を題材にした劇の後、岡山県作成のチラシ『たまされないぞ悪質商法！』を岡山弁で解説されました。

最後に被害にあわないための心得7か条を参加者全員で読み上げました。



↑司会の和泉かよ子さん
(倉敷医療生協)



↑開会挨拶をする西田和久氏



↑藤原忍さん (JA女性協)



↑ももばあ～じゅの皆さん



↑長田美和子さん (岡山医療生協)



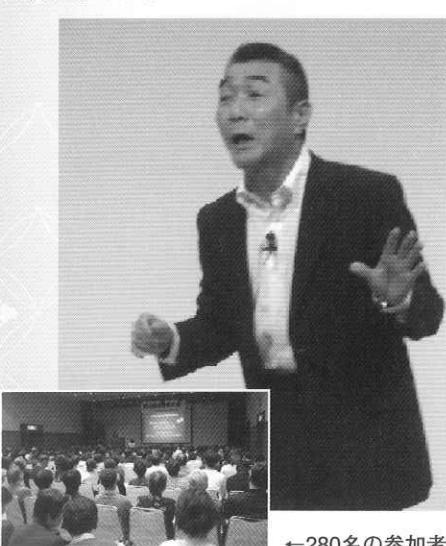
↑鳥形初美さん (おかやまコープ)

続いて、JA岡山県女性組織協議会が「JAグループの食農教育活動について」、岡山医療生協が「旭東支部のふれあい会食会」、おかやまコープが「産地交流」の取り組みについて活動報告を行いました。

今回のメインイベントは、松元ヒロさんの公演「くらしに希望を 茶の間 に “政治” を がんばれ！ 消費者！」が上演されました。

松元ヒロさんは「ザ・ニュースペーパー」結成メンバー。得意のパントマイムから巧みな語りやモノマネで政治風刺・社会風刺を展開。この日も派遣切りで大変な労働者の現状、麻生前総理大臣のモノマネほかで会場は爆笑につぐ爆笑、1時間10分があつという間に過ぎていきました。

最後に、大会宣言が読み上げられ、代表幹事の近藤幸夫弁護士の閉会の挨拶で締めくくりました。



←松元ヒロさん



←280名の参加者



↑大会宣言を読み上げる岡本多賀子さん
(三井造船生協)



↑近藤幸夫代表幹事

★メッセージ・祝電を寄せていただいた団体・政党・国会議員・県議会議員のみなさま★

- 岡山県農業協同組合中央会
- 岡山県漁業協同組合連合会
- 岡山県森林組合連合会
- 岡山県婦人協議会
- 岡山県消費者問題研究協議会
- 民主党岡山県第3区総支部
- 自由民主党岡山県支部連合会

- 会長 村上進通様
- 代表理事長 奥野雄二様
- 代表理事長 井手紘一郎様
- 会長 水野三重子様
- 会長 佐藤久子様
- 代表 西村啓聰様
- 幹事長 天野学様

- 衆議院議員 津村啓介様・柚木道義様・高井崇志様
花咲宏基様・村田吉隆様・逢沢一郎様
加藤勝信様・あべ俊子様
- 参議院議長 参議院議員 江田五月様
- 参議院議員 姫井由美子様・谷合正明様
- 岡山県議会議員 武田英夫様・森脇ひさき様
赤坂てる子様

トおかやまの取り組み・行事から・・・

●消費者月間記念講演会【6月6日（土）13：30～15：25】

岡山国際交流センターを会場に「消費者月間記念講演会」が開催されました。

この講演会は、消費者月間を記念して、毎年開催されている学習講演会で、今回も、岡山県消費者団体連絡協議会が主催し、消費者ネットおかやまの共催で行われたものです。

今回のテーマ：「消費者のくらしを考える！」



↑岡山県消費生活センター 佐藤所長

県消団連代表幹事で青年法律家協会弁護士の近藤幸夫さんが開会挨拶をされました。

先ず初めに「県内の最近の被害・相談の事例の特徴について」と題して、岡山県消費生活センター所長の佐藤秀樹さんから、平成20年度の相談件数とその内容について報告をいただきました。

全体相談件数では前年に比べると約15%減少しているものの、依然高齢者のところでは商品に関する架空請求が多く、相談件数にも変わりはないことが報告されました。

今回は、弁護士の宇都宮健児さん（市民グループ・反貧困ネットワーク代表）をお迎えして、「今日の貧困問題と消費者のくらしを考える」と題してご講演をいただきました。



↑講演中の宇都宮健児 弁護士

職や住まいをなくした労働者に生活相談窓口や食事、宿泊場所を提供する東京・日比谷公園の「年越し派遣村」の名誉村長としてかかわりを持たれ、思いやりや支えあいが今の日本社会では失われていること。困った時に頼る友人・家族がないことが現在の貧困の原因であることなど、人と人との繋がりの重要性を述べられました。

また、サラ金問題の草分け的弁護士として多重債務問題に取り組まれ、国内における貧困拡大の原因は、脆弱な社会保障制度と働く貧困層、非正規雇用の拡大にあると指摘。

貧困を解決するために、消費者運動、労働組合運動、社会保障運動の垣根を越えた連携が求められている、と訴えられました。

感想より

- ・県内の身近な消費者被害のことがよくわかり、あらためて、繰り返し「被害」について勉強する必要を感じた。情報の共有化が大事。
- ・講師の生き方や人へのおもい、あるべき社会の姿にそって活動してこられたことが「反貧困ネットワーク」という何よりもセーフティネットを生み出されたのだと実感。「女性はずっとワーキングプア…」の鋭い指摘だと思う。

特定非営利活動法人「消費者ネットおかやま」のご紹介

NPO「消費者ネットおかやま」は、会員加入を呼びかけています。（年会費1口：個人3千円、団体1万円）加入会員は、12月17日現在で、個人会員62人（75口）、団体会員11団体（67口）となりました。

消費者被害の中で、悪質業者の「不当な勧誘行為」や「不当な契約条項」などのトラブルに接している方は増えています。

身近なところでの情報を寄せください（TEL086-221-4302）

会員でなくても情報をご提供ください。NPO「消費者ネットおかやま」は、消費者被害を未然に防ぐために、例えば、消費者の視点で「正当な約款」を作ろうと努力される事業者のみなさまのご相談にもお応えします。



↑消費者被害なんでも無料相談会風景



活動紹介
事務局長 西島秀尚



会員生協

おかやまコープ

「コープフェスタ2009」が開催され、1万8千人が参加！



おかやまコープの35周年を記念し、「産直」や「地産地消」をテーマとした「コープフェスタ2009」が、10月24日（土）、岡山ドームで開催されました。

当日は好天にも恵まれ、参加目標を上回る1万8千人を超えるたくさんの来場者を迎え、出展していただいた157の生産者やメーカーの皆様と組合員との交流が大いに進むことができたとともに、おかやまコープの商品活動や産直活動、地産地消の取り組みなどを広くアピールする機会となりました。



津山医療生協 健康食品の学習会

12月5日に玉野市民病院の元検査技師の高橋さんをまねいて健康食品の学習会をしました。

私たちにとって身近な問題とあって関心も高く40名が参加しました。

健康食品とはどんなもの。安全性は？必要性は？など具体的な例をあげながら科学的に説明してもらいました。

参加者から「聞いて良かった。健康食品が氾濫している中で自分自身が判断していくかなければ。」との感想が聞かれました。



岡山医療生協 サロン活動があたたかい集いに



岡山医療生協玉野支部では「住んでいてよかった」と思える玉野をつくるためにサロン活動を2年前から始めました。

サロンあさがおとサロンつぶやきではボランティアと高齢者の皆さんの笑い声が絶えることなく温かい集いになっています。

トピックス

県労済生協（全労済）

全労済フェスタ岡山2009を開催

2009年10月25日（日）、秋晴れの空の下、全労済フェスタ岡山2009を開催し、岡山県内各地から約16,000名の方々に、ご来場いただきました。



↑主催者代表挨拶をする森本理事長



↑パパイヤ鈴木さんの親子で踊るダンスレッスン

倉敷医療生協

「ほっとスペース25」の集いに77人



（以下WG）で行った、「川崎医科大学生地域実習受け入れ」があります。

WGは若手職員で構成される研究グループ。11月4日、医学科3年生120名を5回に分けて受け入れました。

11月14日、ほっとスペース25は生協会館大ホールで「ほっとスペース25の集い」を開催し、利用者や司法書士、職員、組合員、地域の方など77名が参加しました。

岡山パブリック法律事務所所長の水谷賢弁護士に「貧困の広がりと深まり」と題して記念講演していただきました。

川崎医科大学生120人が水島を学ぶ

現在、組合では医学生との関わりに力を注いでいます。

その中に、水島まちづくりワーキンググループ



グリーンコープ生協おかやま
グリーンパーティ
…組合員のつどいを各地で実施

2009年度秋のGreenParty
(グリーンパーティ…組合員のつどい)を各地で実施しました。

生産者やメーカーの方を招いての試食交流や活動パネルの展示、料理講座の開催など、多彩に開催されました。
各会場とも大変好評でした。



●岡山県に「要望書」を提出

岡山県生協連は、10月15日（木）県に要望書を提出しました。

要望は、生協の育成、消費者行政、食の安全・食育、災害対策、環境対策、保健・医療・福祉・介護・少子化対策、地産地消運動の分野を中心に23項目となっています。

要望に対する回答は、明年の2月に予定される生活環境部との懇談会で出されます。



要望書を手渡す安場県生協連会長（左）、右は豊田県民生活課長

要望内容の要旨

1. 生協の育成・強化について

消費生活協同組合運営指導委託料について、「継続」を要望します。

2. 消費者行政について

本年9月1日より消費者庁が設置され、消費者行政の一元化と地方の消費者行政強化の方向で一步進展しました。ひきつづき県民（消費者）のくらしや要望に応えられる施策が実行されるようになります。

- ①国が打ち出している地方交付税の拡充が消費者行政部門にきちんと回るようにしてください。
- ②消費者行政部門に司令塔的機能を位置づけ、関係部署の連携を強めて、人員・財政面の充実を図ってください。
- ③「消費生活相談窓口」体制の拡充と相談員の待遇改善等の強化を図ってください。
- ④「自ら考え行動する消費者の育成」の為に消費者団体等との提携をはじめ、広報手段、仕組みづくり、予算措置に大きな支援をお願いします。
- ⑤「消費生活懇談会」は、開催の仕方の改善など消費者に開かれた「懇談会」になることを要望します。
- ⑥消費者団体の活動の費用助成、情報提供、支援、あるいは事業委託機会を設定するなどを要望します。

3. 食の安全・食育について

①社会システムの整備、関係者の倫理観の醸成とともに、行政や関係機関の連携した対応を要望します。

②迅速な情報提供、健康食品等の監視、消費者にとって分かりやすい表示に関する指導に努めてください。

4. 災害対策について

①大災害発災の対策・訓練、通信手段、民間との防災システムの連携、ボランティア受け入れ・集中情報等が緊密に図れるようにのぞみます。

②新型インフルエンザ感染に関する情報網、防災対策、環境整備対策を急いで整備されることを要望します。

5. 環境対策について

①「レジ袋無料配布取り止めに関する協定」を全県下に拡げて行くことを要望します。

②アースキーパーメンバーシップ、マイバッグ運動、もったいないごみゼロコンテスト等の取り組みの現状および事業評価の結果を公表し、県民への啓発効果が確認できる事業を実施してください。

6. 保健・医療・福祉・介護・少子化対策について

以下の諸点について、国に働きかけていただくことを求めます。

①政府管掌健康保険の運営が都道府県単位に移行されることによって、保険料の値上がりに繋がることがないようにすること。

②「後期高齢者医療制度」の廃止は、来年4月の保険料改定前に実現すること。

③「障害者自立支援法」の廃止。廃止されない場合でもすべての利用者負担を本人の応能負担にすること。

④介護の現場で働く人たちの報酬を引き上げること。

⑤多数の特別養護老人ホーム入所待機者のために、特養建設の枠を拡大すること。

⑥医師・看護師が不足している実態を直視し、国に対して抜本的な対策を求めるこ。

⑦産科、小児科、救急などの体制を市町村の実態に即して、緊急に整備・充実すること。

⑧療養病床削減計画を見直してください。

7. 産消提携、地産地消運動について

①自給飼料の増産支援とともに、農政全般に関わる要望として、再生産を可能とする「保障・補償措置」を国に働きかけてください。

②啓発のための施策の実行と、農商工連携に取り組みながら、県内における生協および農・漁・林業協同組合が進める連携事業に対する県の位置づけを強化して、よりいっそうのご支援を要望します。